



相撲部

■ 1917年(大正6年)公認

部員数

9名



部長
作野 誠一
スポーツ科学学院
教授



監督
橋本 侑京



主将
川副 楓馬
スポーツ学部
文徳

東日本学生選手権大会ではBクラスで優勝、4年ぶりにAクラスベスト8に進出しました。この結果、夏の選抜大会(金沢・十和田)の出場権を獲得。十和田大会では予選を突破し、54年ぶりの団体ベスト8に進出しました。Bクラスでの出場となった東日本学生リーグ戦(団体7人制)では、けが人が多く5人で奮闘し、Bクラスを死守。また女子では、2年篠原が学生選抜大会で準優勝、全日本選手権大会において、早稲田史上初となる優勝(55kg未満級)を果たしました。主将4年川副を中心として部員がしっかりとまとまり、結果を残したと思います。次年度も古豪復活を果たすべく、部員一同さらなる高みを目指して精進いたします。

今年度は新入生の入部がなく、現状の部員数6名での戦いを強いられ、厳しい事が予想された。しかし東日本学生選手権で団体戦ベスト8に進出。4年ぶりのAクラス昇格と夏の選抜大会出場権を獲得した。夏の選抜十和田大会では、54年ぶりの団体ベスト8進出に全国に早稲田の名を轟かせた。また女子は全日本女子相撲選手権個人優勝し本校史上初。集大成である全国学生相撲選手権大会は怪我による欠場もあり、団体個人共に悔しい結果となった。しかし当初の厳しい予想より少数精鋭の強みを活かし各大会で躍進することができた。来年度以降も厳しい戦いとなる事が予想されるが、学生と共に考えながら稽古を行い、早稲田大学の名に恥じぬ成績を残せるよう精進していきたい。



主務
岸本 恵果
人間科学部
鹿兒島中央

今年も相撲部への温かいご支援を賜り、ありがとうございました。
日々の練習や遠征の準備、応援の環境づくりなど、部を支える多くの方々の力によって活動を続けることができました。改めて、早稲田相撲部は多くの人の支えの上に成り立っていることを実感した一年でした。新入部員がいない中でシーズンは決して楽ではありませんでしたが、限られた人数だからこそ、互いに支え合う姿が印象的でした。主務としては、選手が安心して土俵に立てるような環境を整えることを大切にしました。来年度も、選手が今以上に力を発揮できるよう、陰から全力で支えてまいります。引き続き早稲田大学相撲部への温かいご声援をお願い申し上げます。



本年度試合戦績

成績(早稲田勝利:○、引き分け△、敗戦●)

◇東日本学生相撲選手権大会 (6月8日)

団体戦
▷Bクラス 優勝
▷Aクラス ベスト8

個人戦
▷川副 Aクラス3回戦敗退
▷鈴木 BCクラス3回戦敗退
▷内田 Aクラス2回戦敗退
▷岡本 Aクラス1回戦敗退
▷横山 Aクラス2回戦敗退

◇全国女子相撲選抜ひめじ大会 (6月15日)

一般の部 55kg未満級
▷準優勝

◇全日本大学選抜相撲金沢大会 (7月20日)

団体戦
▷12位
個人戦
▷川副 2回戦敗退
▷鈴木 2回戦敗退
▷内田 2回戦敗退
▷横山 3回戦敗退

◇全日本女子相撲岐阜大会 (7月20日)

一般 55kg未満級
▷2回戦敗退

◇東日本学生相撲個人体重別選手権大会 (7月27日)

115kg未満級

▷鈴木 1回戦敗退

135kg未満級

▷剣持 1回戦敗退

135kg以上級

▷川副 2回戦敗退

無差別級

▷内田 3回戦敗退(ベスト8)

▷横山 1回戦敗退

◇全日本大学選抜相撲十和田大会 (8月14日)

団体戦
▷ベスト8

個人戦

▷川副 2回戦敗退

▷鈴木 1回戦敗退

▷内田 2回戦敗退

▷岡本 3回戦敗退

▷横山 1回戦敗退

◇全国学生相撲個人体重別選手権大会 (8月31日)

無差別級

▷内田 1回戦敗退

◇東日本学生相撲リーグ戦 (9月20日)

二部

▷4勝24点(4位)

◇全国学生女子相撲選手権大会 (9月20日)

個人戦

▷60kg未満級 1回戦敗退

▷無差別級 1回戦敗退

◇全日本女子相撲選手権大会 (10月12日)

個人戦

▷55kg未満級 優勝

▷無差別級 1回戦敗退

団体戦

▷2回戦敗退

◇全国学生相撲選手権大会 (11月1日~2日)

個人戦

▷鈴木 2回戦敗退

▷内田 1回戦敗退

▷剣持 1回戦敗退

▷岡本 1回戦敗退

▷横山 3回戦敗退(ベスト32)

団体戦

▷13位

